

株式会社 オービーエス

認定テーマ名：バス車内の Wi-Fi 設備を活用した多言語情報サービスの開発・事業化

1. 認定事業の現況

当社は 1994 年の創業以来、自動車とその構成部品、主にバス用の電装品を中心とした設計・開発・製造販売と、それら機器の装着や車両改造などに取り組んできた。事業者との取引が深化していくにつれ、製品販売だけでなく、運営サポートやメンテナンスなど付加価値の高いサービスも行うようになった。

とくにバス事業者へのサポートを行う中で、昨今のインバウンド観光需要の拡大にビジネスチャンスを見出し、「多言語による車載情報サービス」という新しい分野に着目した。単なる情報提供だけでなく、エンタテインメント性を持った情報サービスを意味する“Infotainment”（インフォテインメント）を入れて、当社でミッツ (MITS: “Multilingual Infotainment Service” の略語) と名づけたサービスである。

近年、バスやトラックの電装品でデジタル化やネットワーク化が進んでいるが、新事業はもともバスに装着されている Wi-Fi を経由して取得する情報と、GPS が取得する位置情報を組み合わせ、さらに多言語化することで自動的に車窓ガイドや情報提供を可能とするものである。

乗客は、レシーバーのチャンネルを切り替えるだけの簡単な操作で、観光案内などエンタテインメント性が豊かな情報を、母国語の画像と音声でタイムリーに見聞きすることができる。事故や災害など緊急時の情報提供においては、そのリアルタイム性が最大限に効果を発揮する。

バス運行事業者にとっては、多言語・多チャンネル化の効果で、さまざまな母国語を持つ観光客を 1 つのバス車両に乗せる「混乗ツアー」が可能となり、生産性が向上する。また、MITS を装備した機器は小型・軽量のショルダーバッグ型であるため、どの車両にも持ち込み可能で、電源を入れるだけの簡単操作でドライバーやガイドの業務負担にならない。さらに、Wi-Fi 連動なので、交通情報やルート変更による情報の変更にも、「割り込み情報」機能で対応できる。

初期の開発段階を経て、現在では中国にある TAMO 社製のハードウェアに切り替えたが、ハードウェアとの親和性もよく、操作性や装着性が増している。

販売は好調であり、現在までに、京都や沖縄など、観光地にあるバス会社を中心に販売に成功している。

＜コア企業と連携企業の関係とバス車内の Wi-Fi を利用した MITS サービス＞



2. 今後の展望（見通し）

昨年秋に日本各地で開催されて人気を博したラグビーワールドカップに続いて、今後もオリンピック、万国博覧会など日本各地でグローバルなイベントが開催されるが、それらを契機として、インバウンドの観光需要が今後ますます高まっていくと考えられる。政府も、2016年に更新発表した日本再興戦略において、2030年には訪日外国人を6,000万人に引き上げるという目標を掲げており、観光立国化に向けた姿勢を内外に強く発信している。

今後、外国人観光客からは、日本語の音声を瞬時に翻訳して音声情報として提供するリアルタイム翻訳などの要望が高くなることが予想される。また現在、乗客は座席背面などに取り付けられた液晶画面を使っているが、乗客自身のスマートフォンを使って情報を得ることもできればより利便性が高まる。提供する情報コンテンツについても、観光地にある名所や旧跡などの案内だけでなく、日本食のマナー、浴場における作法、歴史的な背景、文化財保護の取り組みなど、訪日外国人に日本文化をより深く知ってもらうコンテンツを考えていく。

こうした技術面やコンテンツ面の改良を進めていくことで、より広範なニーズに答えていく予定である。また、業界においては人手不足バスガイドや通訳士などの不足が顕在化しており、今後はこうした問題に対応するソリューションとして、当社のサービスをアピールしていく。また、バス事業者の側からも、観光バスだけでなく、路線バスにこの技術を応用できないかといった問い合わせもある。この新連携事業をテコにして、当社にとっての既存事業分野である車椅子対応車両への改造などとのシナジーを活かしながら、ダイバーシティ社会の実現に向けて、社会に貢献を続けていくことをめざしている。

<観光バスなどで利用されているGPS内蔵型の自動ガイドシステムと実装状態>



Powered by **TAMO** Professional supplier for vehicle audio, video system

3. 認定を目指した経緯

近年、いわゆるインバウンドの外国人観光客が増加しているが、言語や習慣のちがいがから外国人乗客への対応に苦慮している観光バス事業者は多い。チケット売り場やガイドなど、直接的に乗客と接するサービスについては、言語教育や海外出身の採用などの人材育成面での対応が進んでいるが、観光事業の中核となるサービス分野、とくに車窓観光のガイドについては外国語対応がうまく進んでいるとは言えない状況があった。

そうした環境下にあった、当社では車体据付型の4か国語ガイドシステムを観光バスに設置した実績があり、2020年に開催が決まって間もない東京オリンピック（開催地決定は、2013年9月に開かれたIOC総会において）など今後高まることが予想される、多言語ガイドシステムへの需要に応えるべく、新事業に着手したものである。

4. 利用した中小機構の支援策

●ハンズオン支援（専門家派遣）：

以下のようなテーマで、ハンズオン支援を実施した。

・特許取得にかかる支援（2015年6月～7月実施）

本事業にかかる特許の取得に関して、とくに GPS 機能についての可能性や先行特許の状況について専門家（弁護士・弁理士）による助言を受けた。

・販売戦略の構築（2018年7月～10月実施）

製品とサービスのプロモーションに関して、カタログの効果的活用、営業担当社員の意識改革、代理店の活用策、商品構成の軽量化に取り組む方法などについて、専門家による助言を受けた。

●認定事業者交流会への参加

- ・2018年2月に実施された認定事業者交流会に参加し、新事業に関連する技術を有する他の認定事業者との交流や意見交換を積極的に行った。

5. 企業概要

事業者名	株式会社オービーエス		
本社所在地	東京都豊島区池袋 4-2-11 OAビル 8F		
ホームページアドレス	http://www.obs-jp.com		
設立年月	1994年4月		
資本金	10,000千円	従業員数	20名

※令和2年3月31日現在

6. 認定事業の概要

テーマ名	バス車内の Wi-Fi 設備を活用した多言語情報サービスの開発・事業化
テーマの概要	近年、観光バスには Wi-Fi 設備が搭載されている場合が多いが、主にスマホ利用など乗客の利便性を高めることを目的としており、バス事業者が活用を図ることは稀であった。本事業では、こうした Wi-Fi 設備のインフラを多言語情報サービスに利用しようというものである。運行中のバス車内において、GPS の位置情報とリンクしながら名所旧跡等の情報がリアルタイムで更新されることから、運転手や乗務員の手を煩わせることもない。乗客に正確で有意義な情報を多言語で提供する。また、事業者にとっては外国人と日本人の混乗ツアーが可能となり、生産性向上につながる。バスガイドや通訳案内士の確保に苦心する事業者が多いが、こうしたサービス人材の省力化にも貢献する事業である。
認定期間	平成 27 年 7 月 10 日～令和 2 年 7 月 9 日